CORE Metadata, citation and similar papers at core.ac.uk

大阪樟蔭女子大学論集第 40 号（2003）

付属幼稚園における宿泊保育に関する研究

－宿泊保育前の生活習慣と直後の子どもの様子－

清　水　益　治
岡　嶋　淳　子
米　田　匠　子

Abstract: 45 parents were asked about their children's daily life habits before a summer camp and their children's attitudes in home just after the camp. An analysis of children's attitudes showed that children talked much about the camp, and that they wanted to go a camp again. An analysis of the relationship between the habits and the attitudes showed that children who formed good habits enjoyed more than those who didn't. These results were discussed in relation to the children's habit formation and the reconstruction of a curriculum at kindergarten.

Keywords: summer camp, daily life habit, reconstruction of curriculum

はじめに

保育を振り返ること

幼稚園教育要領には、「行事の指導に当たっては、幼稚園生活の自然の流れの中で生活に変化や潤いを与え、幼児が主体的に楽しく活動できるようにすること。なお、それぞれの行事についてはその教育的価値を十分検討し、適切なものを精選し、幼児の負担にならないようにすること」とある。また、同解説には、① 幼児にとっての行事とは、② 行事を選択する際に考慮すべき点、③ 行事の指導に当たって配慮する点、④ 行事による幼児の負担について記述がある。これらの記述からは、幼稚園には、次のようなことが求められていると考えられる。すなわち、幼稚園には、幼児を中心に据えて、常に行事を振り返り、その適切さを見直していくことが求められていると考えられる。

ではどのような見直し方をすればよいのであろうか。行事に限らず、一般に保育を振り返るには、3 つの方法があると考えられる。その一つは保育者の目を通して振り返る方法、二つ目は保護者の目を通して振り返る方法、最後は子ども自身の姿を客観的にとらえて振り返る方法である。以下では、それぞれの方法による保育の省察を、過去 5 年間の日本保育学会の発表論文集から概観しよう。

保育者の目を通して振り返る

保育者によって書かれた保育記録や撮られたビデオ記録、保育者に対するアンケートなどを通

して、保育を振り返る方法である。例えば、生沼（1999）、生沼・長山（2000）、田中ら（2000）は、保育者によって書かれた保育記録を元に、保育を振り返っている。また石田ら（1997）は合宿保育に喘息児を参加させた実践を当日の観察を元に、安見ら（1997）と秋田ら（1997）は拒否的表現を示すR児をVTRや記録を元に、齋藤（1997）は乳児院の縦割り保育を保育者へのアンケートを元にそれぞれ振り返っている。

なお、これらの方法のうち、VTRを用いた振り返り方は、保育者だけでなく保育研究者が参加することにより、保育の改善だけでなく、保育者の成長にも役立つと考えられる（若月ら、1997；高橋ら、1999；久保寺ら、1999；松浦・岸井、2000；岸井・松浦、2000；長沼・生沼、2000；久保寺ら、2000；）。また、アンケートを用いた振り返り方は、保育サービスの自己評価に関係づけて、特に活発な研究が行われるようになってきている（諏訪ら、1997；岩立ら、1997；土方ら、1998；岩立ら、1998；金田ら、1998）。

保護者の目を通して振り返る

保護者の行動や声、保護者に対するアンケートなどを通して、保育を振り返る方法である。例えば、金田・阿久津（2000）は保護者の参加者数を元に運動会を、小関（1999）は保護者の声を聞くことにより自らの自宅に子どもを泊まらせる「園長宅ホームステイ」を振り返っている。また、藤澤（2001）と清水ら（2001）は保護者へのアンケートを通して幼稚園の預かり保育を振り返っている。さらに倉戸・倉戸（2001）は大規模な調査により保護者の保育ニーズをとらえ保育に反映させようとしている。この方法は、調査対象を自らの園に限定すると実施が比較的容易なので、今後、多くの園がこの方法を日常的に用いて、自らの実践を改善していくことになると思われる。

子どもの姿を客観的にとらえて振り返る

特別な記録用具を用いて、子どもの姿を客観的にとらえて、保育を振り返る方法がこれにあたる。例えば、米谷（1997）は、子どもに歩数計（運動活動量の測定）、パルスウオッチ（心拍数の測定）を身につけさせて保育の効果を検討している。また、清水（1998）は発達検査のようなものさしを通して子どもを客観的にとらえて保育を振り返ることを提唱しており、硯川ら（1999）は保育所保育指針を元に子どもの発達する姿に関する「自主基準づくり」を行い、保育園の保育内容を振り返っている。今後、この方法では、子どもの自然な姿を客観的にとらえる記録用具作りとその基準（ものさし）作りが求められるであろう。

本研究の目的

以上のように保育を振り返った研究を概観してきたが、これらの中には、行事を振り返った研究は少ない。そこで本研究では、「宿泊保育」という行事を取り上げ、保護者に対するアンケートを通して、本園でこの行事を振り返った実践を報告する。

振り返る行事として、本研究で「宿泊保育」を取り上げたのは、以下の2つの理由による。その一つ目は、宿泊保育は、実施している園としていない園があるため、その教育的価値を明らかにしておくべきだと考えたからである。特に平成13年度は、悲惨な事件があったこともあり、実施を見合わせた園も多かったと聞く（私信）。すべての園が実施しているのではないということは、その行事は精選の必要性を検討すべき対象となりうる。そこで、少なくとも宿泊保育に、

どのような教育的価値があるかを振り返っておく必要がある。

二つ目の理由は、本園では、「おかあさんといっしょにおおきくなる」というキャッチフレーズをかかげており（平成13年度入園案内)、宿泊保育の経験は保護者にとっても、以下の点で、幼稚園生活の大きな行事であるととらえているからである。すなわち、保護者にとっても、子どもがいない夜を過ごすことは、子どもの生活と自分たちの生活を見直す上でよい機会になるととらえているからである。

保護者に対するアンケートという方法を用いたのは、宿泊保育を終えて帰宅後の様子を調べることで、子どもに負担であったかどうかの情報を得るためである。ある行事が子どもに負担になっているかどうかを調べるには、行事の最中の子どもの様子を観察しているだけでは、以下の2つの理由で不十分であると思われる。その理由は①保育者は子どもの様子を見ながら行事を進めるので、子どもに負担であれば、その時点で予定を変更することができるから、②子どもの気分はその場の雰囲気によっても左右されるので、楽しい音楽が流れているだけで負担に気づかないかもしれないからである。

なお、本園では、宿泊保育前に、子どもの生活リズムの調査も実施している。そこで、この生活リズムの確立が宿泊保育後の子どもの様子に与える影響についても合わせて検討する。もし両者の間に関係があることが明らかになれば、宿泊保育に先立ち、生活リズムを整える指導を工夫することができるであろう。本研究の目的は、①宿泊保育直後に子どもの様子を調べることで、宿泊保育の教育効果を調べること、②宿泊保育前に子どもの生活リズムを調べて、生活リズムの確立が、宿泊保育の効果に及ぼす影響について調べることである。

方　法

調査対象　○大学附属幼稚園年長児（48名）のうちで平成13年7月13日から14日にかけて実施した宿泊保育に参加した幼児45名。

宿泊保育のプログラム　図1に本年度の宿泊保育のプログラムを示す。。本園では、このよう

日	時刻	プログラム
7月13日（金）第1日目	13:30	登園　受付
		チェックカード・はげましメッセージ提出
	14:00	クッキング（カレーライス・フルーツゼリー）
		開会式（遊戯室にて）
		各リーダー（先生）と荷物の整理
		ゲーム遊び
		すいかわり　水遊び
		シャワ
	17:00	グループに分かれてリーダー（先生）と一緒に夕食準備
		夕食（園庭にて）
		保護者よりのはげましのメッセージを読んでもらう
	19:00	探検　幼稚園～樟蔭学園内散策
		宝さがし
		キャンプファイヤー
		歌・手遊び・職員劇
	20:00	花火大会
		クラスに分かれて就寝準備
	21:00	絵本
		就寝
7月14日（土）第2日目	6:00	起床
		グループに分かれてリーダー（先生）とふとん片づけ
		ラジオ体操
		散歩～樟蔭学園
		門衛さんと小阪派出所にお礼の挨拶
	7:30	朝食（園庭にて）
	9:00	好きな遊び（アクセサリー作り・手品カード・プール・スライム・小麦粉粘土）
	10:15	閉会式（遊戯室にて）
		賞状渡し
	10:30	解散

図1　本年度の宿泊保育のプログラム

なプログラムの元で、幼児は幼稚園の教室で１泊する。日頃、通い慣れた園舎で一晩を過ごすことは、園生活の自然な流れに大きな変化を与えることになる。

調査内容　① 宿泊保育前の調査　当園では毎年、宿泊保育前に、当該年齢児を対象に２つの調査を実施している。その一つは生活リズムをチェックする調査であり、もう一つは、当日の様子の調査である。このうち、今回の分析では、生活リズムに関する調査を分析している。

生活リズムを調べるためには、図２に示す生活リズムチェックカードを用いている。このカードでは、宿泊保育の約３週間前に配布し、起床した時間、洗顔したかどうか、朝食を食べたかどうか、歯磨きをしたかどうか、夕食の時間、夜に歯を磨いたかどうか、排便をしたかどうか、した場合、いつしたか、就寝した時間、夜尿をしたかどうかを１週間にわたって毎日記録するようになっている。

② 宿泊保育後の調査　当園では毎年、宿泊保育後にも、子どもの健康状態をチェックしたり、保護者が感想を書く調査を実施してきた。本年に実施したアンケート用紙を図３に示す。

この図に示したように、本年の調査では、準備段階として健康チェックカード、励ましメッセージ、当日までの保育に対する意見や感想、宿泊保育当日のこととして保育の内容、進行、補助などに対する意見や感想、宿泊保育後の子どもの様子、全体を通しての感想や意見を書くようになっている。

調査手続き　宿泊保育前の調査として、健康チェックカードは図２にあるように、平成13年6月21日に配布し、6月29日に回収した。宿泊保育後の調査は図３に示したように、宿泊保育の４日前に配布し、宿泊保育の３日後までに回収した。

H.13.6.21
大阪樟蔭女子大学
附属幼稚園

生活リズムチェックカード

くみ　　なまえ

もうすぐ待ちに待った、お泊まり保育ですね。一晩、家族と離れ友だちと生活を共にすることの期待と不安で胸がふくらんでいることと思います。子どもの生活を記録することで生活のリズムを見直しましょう。下記の６／22（金）～６／28（木）までの記録を正直に記入して下さい。

	6/22 金	6/23 土	6/24 日	6/25 月	6/26 火	6/27 水	6/28 木	記入例
起床時間								7：00
洗顔								洗った　→ ○ 洗ってない→ ×
朝食								食べた　→ ○ 食べなかった→ ×
朝　歯磨き								磨いた　→ ○ 磨かなかった→ ×
夕食の時間								18：30
夜　歯磨き								磨いた　→ ○ 磨かなかった→ ×
排便の有無								した　朝　昼　晩 しない　→ ×
就寝時間								20：30
夜尿								しない　→ ○ した→×（23：00）

※いずれかに○印をして下さい
・夜尿しないが起こす・・・必要ない・必要（　　時）
・常に服用又、塗布している薬がありますか・・・ある・ない
その他、宿泊保育で留意する点があればご記入下さい。

図２　宿泊保育前の調査

宿泊保育について

平成 13 年７月９日
大阪樟蔭女子大学
附属幼稚園

いよいよ、待ちに待った宿泊保育が 13 日から始まります。
この『宿泊保育』についてのご意見・ご感想をお聞かせ頂き、宿泊保育終了後のお子様の様子についてもお教えくださいますようにご協力の程お願いいたします。
今後の『宿泊保育』の参考にさせていただきたく存じますので、７月 17 日（火）までに、全員、担任にお渡しくださいますようお願いいたします。

（　　）組　氏名（　　）

1．準備段階（健康チェックカード・励ましメッセージ・当日までの保育等）について

2．宿泊保育当日（保育の内容・進行・補助等）について

3．宿泊保育終了後のお子様の様子についてうかがいます。次の文について、「とてもよくあてはまる」から「まったくあてはまらない」のうち１つを選んで○を付けてください。

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらでもない	ややあてはまる	とてもよくあてはまる
①宿泊保育のことをよく話す	1	2	3	4	5
②宿泊保育でした遊びをしたがる	1	2	3	4	5
③通常保育中のことをよく話す	1	2	3	4	5
④通常保育中の遊びをしたがる	1	2	3	4	5
⑤母親に甘えたがる	1	2	3	4	5
⑥宿泊保育で遊んだ友達と遊びたがる	1	2	3	4	5
⑦いつも遊ぶ友達と遊びたがる	1	2	3	4	5
⑧母親と遊びたがる	1	2	3	4	5
⑨「またお泊まりをしたい」と言う	1	2	3	4	5

⑩お子様の健康状態についてお教えください。
〔　　〕

⑪その他、お子様の様子で、気がつかれた点がございましたら、お教えください。
〔　　〕

4．全体を通してのご感想をご自由にお書き下さいますようお願いいたします（裏面までまわっていただいても結構です）

ありがとうございました。

図３　宿泊保育後の調査

結　果

2名の幼児はアンケートに記入漏れがあったため、分析からは除いた。図4は、宿泊保育後の子どもの様子についての平均評定値である。この図で、1は“全くあてはまらない”、3は“どちらでもない”、5は“とてもよくはてはまる”に相当する。最も平均値が高かったのは“宿泊保育のことをよく話す”（平均4.0)、次いで“「またお泊まりしたい」と言う”（平均3.7）であった。このことから宿泊保育は、少なくとも、幼稚園生活に変化を与えたとは言えるであろう。

“どちらでもない”の“3”を母平均と考えて、各平均値がこの値を上回っているかどうかを検定した。その結果、“宿泊保育のことをよく話す”、“「またお泊まりしたい」と言う”に加えて、“通常保育中の遊びをしたがる”、“母親に甘えたがる”、“いつも遊ぶ友達と遊びたがる”の3項目でも“3”を上回っていた（いずれも $p<.01$)。例えば、宿泊保育を終えた日には、特別に母親に甘えさせるなど、これらの様子に応えることは、生活に潤いを与えることにもつながるであろう。

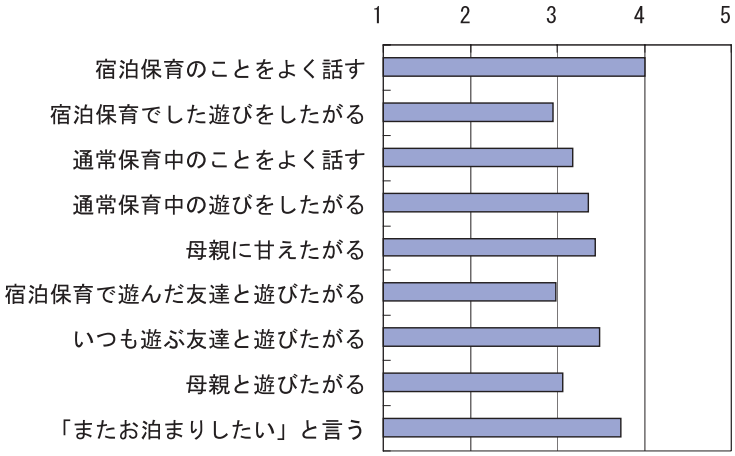

図4．宿泊保育後の子どもの様子

生活リズムチェックカードで調査した項目のうち、洗顔、朝の歯磨き、排便、夜尿について○の数の分布を示したものが表1である。これらの4つのリズムが完全に確立している子どもの割合は、夜尿が69.8%で最も多く、次いで洗顔（60.5)、朝の歯磨き（48.8)、排便（32.6）の順になっていた（夜尿については、16.3%の子どもが、まだ毎晩夜尿をしており、確立しやすい習慣とは言い難い)。これらの値が年長組として適当かどうかは定かではないが、このような結果を示すだけでも保護者が子どもの基本的習慣を意識をするには十分であろう。

次にこの表に基づいて、生活リズムが確立している子どもとしていない子どもを選出した。そして、それらの子どもについて、宿泊保育終了後の様子の平均値を比較した。その結果が表2である。その結果、洗顔の習慣がついている子どもは、ついていない子どもよりも宿泊保育で遊んだ友達と遊びたがり、排便の習慣がついている子どもは、ついていない子どもよりも、宿泊保育でした遊びをしたがった。これらの結果から、生活リズムの確立と、宿泊保育を十分楽しむこと

表１．生活リズム確立の程度（数値は％。N=43）

	0日	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日
洗顔	7.0	−	−	4.7	2.3	11.6	14.0	60.5
朝の歯磨き	4.7	4.7	7.0	4.7	11.6	7.0	11.6	48.8
排便	−	2.3	2.3	14.0	14.0	20.9	14.0	32.6
夜尿	69.8	4.7	−	2.3	−	4.7	2.3	16.3

表２．生活リズムの確立程度別、子どもの宿泊保育終了後の様子

宿泊保育終了後の様子	洗顔		朝の歯磨き		排便		夜尿	
	確立(26)	4日以下（6）	確立(21)	3日以下（9）	確立(14)	4日以下（14）	確立(30)	5日以上（10）
宿泊保育のことをよく話す	4.1	3.8	4.0	4.1	4.3	3.6	3.9	4.4
宿泊保育でした遊びをしたがる	3.0	3.0	2.8	3.1	3.6	2.4	2.8	3.2
通常保育中のことをよく話す	3.2	2.5	3.1	3.2	3.9	2.8	3.1	3.4
通常保育中の遊びをしたがる	3.3	3.0	3.2	3.1	3.6	3.0	3.3	3.4
母親に甘えたがる	3.5	3.2	3.5	3.3	3.6	3.3	3.3	3.7
宿泊保育で遊んだ友達と遊びたがる	3.1	2.3	3.0	2.4	3.2	2.8	3.0	2.9
いつも遊ぶ友達と遊びたがる	3.7	3.8	3.5	3.8	3.9	3.6	3.5	3.8
母親と遊びたがる	3.1	3.2	3.1	3.0	3.5	2.8	2.9	3.5
「またお泊まりしたい」と言う	3.7	3.8	3.6	3.8	3.7	3.4	3.8	3.3

とは、深く関連していると言える。そのため、宿泊保育の前に生活リズムの確立を促すことは、宿泊保育の教育効果を高めると考えられる。

考　察

本研究では、宿泊保育が幼稚園生活に変化や潤いを与える行事であること、また、その教育効果は、宿泊保育に参加するまでに、子どもがどの程度生活リズムを確立しているか依存することを示した。

本園の宿泊保育の大きな特徴は、幼稚園の教室で一晩を過ごすところにある。幼稚園は、年長児にとっては通い慣れた空間である。そのため、日中は、習慣的に主体的に楽しく活動できる。しかしながら、夕方から夜にかけてのこの空間は、幼児にとって初めて経験する空間である。見慣れた空間でも全く違うものに感じるかもしれない。どれほど教育的価値があっても幼児にとって負担になるようでは、幼稚園教育の基本からも逸脱する。そのため、幼児が楽しく過ごせるプログラム作り、すなわち図１を見直し、精選していくことが今後の課題であろう。

次に、行事の視点から本研究の結果を考察しよう。幼稚園では様々な行事が運営されている。本園でも、始業式・終業式など学期区切りの行事、入園式・卒園式など学年区切りの行事、七夕祭りなどの季節の行事、毎月の誕生会、遠足、親子クッキングなどの行事がある。これらの行事には、それぞれほぼ１日が割り当てられている。このことは、裏を返せば、それぞれの行事のために、通常保育が１日削られていると考えることもできる。行事の精選は、通常保育の充実につながるという視点も必要であろう。

最後に、本研究で示した教育効果は、短期的なものである。極端に考えれば、一晩限りの効果かもしれない。この点について宮崎（2002）は、宿泊保育の経験はお手伝いをする習慣作りなどにも有効であることを示唆しているが、さらなる研究の積み重ねが必要である。また子どもの姿を客観的にとらえて行事を振り返ることに関しても、今後の課題である。

引用文献

秋田喜代美・安見克夫・小林美樹・鳥井亜紀子・寺田清美　1997　1年間の保育記録の省察過程(2)－R児をめぐるカンファレンスの検討－．日本保育学会第50回大会研究論文集，738-739.

藤澤彩　2001　幼稚園における預かり保育および子育て支援について－母親へのアンケート調査を通して－日本保育学会第54回大会発表論文集，460-461.

土方弘子・岩立志津夫・諏訪きぬ・金田利子・木下孝司・斎藤政子　1998　3歳未満児の「保育の質」に関する研究（Ⅷ）～「3歳未満児の保育の質尺度1997（自己評価用）」に基づく調査①項目別集計～日本保育学会第51回大会研究論文集，500-501.

生沼晴美　1999　保育のほりおこしから見えるもの．日本保育学会第52回大会発表論文集，392-393.

生沼晴美・長山篤子　2000　園内研修（Ⅱ）－保育のほりおこしから見えるもの（2）－．日本保育学会第53回大会発表論文集，320-321.

石田隆博・石崎韶・石田高幸　1997　幼児合宿における前即時についての実践的研究1．日本保育学会第50回大会研究論文集，250-251.

岩立志津夫・土方弘子・諏訪きぬ・金田利子・木下孝司・斎藤政子　1998　3歳未満児の「保育の質」に関する研究（Ⅸ）－「3歳未満児の保育の質尺度1997（自己評価用）」に基づく調査②因子別集計－日本保育学会第51回大会研究論文集，502-503.

岩立志津夫・諏訪きぬ・土方弘子・金田利子・斎藤政子　1997　3歳未満児の「保育の質」に関する研究（Ⅶ）－「3歳未満児の保育の質の測定と評価」に関する調査②因子分析を使った分析．日本保育学会第50回大会研究論文集，488-489.

金田正一・阿久津紀子　2000　幼稚園の運動会の観客調査．日本保育学会第53回大会発表論文集，858-859.

金田利子・斎藤政子・木下孝司・岩立志津夫・諏訪きぬ・土方弘子　1998　3歳未満児の保育場面における保育方法の選択にみる「保育の質」．日本保育学会第51回大会研究論文集，504-505.

小関祐一　1999「園長宅ホームステイ」を通して見えて来たもの－10年間の実践からの考察－．日本保育学会第52回大会発表論文集，172-173.

岸井慶子・松浦浩樹　2000　園内研究をめぐって（その2）－ビデオ観察を通した共同研究について－．日本保育学会第53回大会発表論文集，160-161.

久保寺節子・高橋尚美・鵜飼津也子・岩崎婉子　1999　幼児理解を深めるための園内研究の進め方　その2　ビデオ・カンファレンスにおける自己変容について．日本保育学会第52回大会発表論文集，390-391.

久保寺節子・鵜飼津也子・村上恭子・岩崎婉子　2000　幼児の遊びを充実させるために～ビデオ・カンファレンスを通して教師の援助を探る～．日本保育学会第53回大会発表論文集，322-323.

倉戸直実・倉戸幸枝　2001　幼稚園や保育園を利用者はどのように評価しているか－幼稚園や保育園に在園している保護者のアンケートから－．日本保育学会第54回大会発表論文集，444-

445.
松浦浩樹・岸井慶子　2000　園内研究をめぐって（その 1）－［撮られる］ことをどう乗り越えるか－．日本保育学会第 53 回大会発表論文集，158-159.
宮崎裕美　2002　宿泊保育による子どもの変化　大阪樟蔭女子大学平成 13 年度卒業論文
長山篤子・生沼晴美　2000　園内研修（Ⅰ）－園内研修と保育のかかわり－．日本保育学会第 53 回大会発表論文集，318-319.
齋藤政子　1997　ある乳児院における縦割り保育実践の検討と課題．日本保育学会第 50 回大会研究論文集，496-497.
清水益治　1998　子どもをとらえるものさし．自主シンポジウム 11　どのように子どもを「捉える」か－21 世紀の保育と発達研究への提言－（企画者：祐宗省三・原野明子）日本保育学会第 51 回大会発表論文集，S22-S23.
清水益治・平化恵美子・中村純子　2001　預かり保育に関する研究（1）－利用の理由と利用後の子どもの様子－　日本保育学会第 54 回大会発表論文集，670-671.
諏訪きぬ・岩立志津夫・土方弘子・金田利子・斎藤政子　1997　3 歳未満児の「保育の質」に関する研究（Ⅵ）－「3 歳未満児の保育の質の測定と評価」に関する調査 ① 実際の保育評価、単純集計－日本保育学会第 50 回大会研究論文集，486-487.
硯川和歌子・木村昭仁・中島一・江藤美信　1999　＝園生活（集団保育）の意義と保育内容自己評価へのとりかかりを求めて＝その ①：「3 歳児における発達しらべ」～他・10 年間の資料を紐解いて～．日本保育学会第 52 回大会発表論文集，248-249.
高橋尚美・久保寺節子・鵜飼津也子・岩崎婉子　1999　幼児理解を深めるための園内研究の進め方　その 1　効果的なビデオ・カンファレンスについて．日本保育学会第 52 回大会発表論文集，388-389.
田中三保子・桝田正子・吉岡晶子・伊集院理子・上坂元絵里・高橋陽子・尾形節子・清宮聡子　2000　連携を軸に保育の要点を探る－保育カンファレンスを通して考える－．日本保育学会第 53 回大会発表論文集，324-325.
若月芳浩・大豆生田啓友・渡辺英則・鈴木直江・鈴木法子・高杉展・大豆生田千夏・平山園子　1997　保育の物語を探る事例研究の試み（5）－保育に生きる実践研究－本保育学会第 50 回大会研究論文集，732-733.
安見克夫・秋田喜代美・鳥井亜紀子・小林美樹・寺田清美　1997　1 年間の保育記録の省察過程（1）－拒否的表現をするＲ児を捉えて－．日本保育学会第 50 回大会研究論文集，280-281.
米谷光弘　1997　幼児期の保育指導がおよぼす運動活動量への影響．日本保育学会第 50 回大会研究論文集，158-159.

謝辞：本研究を実施するにあたり、平成 13 年度大阪樟蔭女子大学 4 回生宮崎裕美さん（現在、学校法人増田学園　今川幼稚園）の協力を得ました。記して感謝の意を表します。